

札 幌 大 学

法学部自治行政学科開設記念「まちづくり懸賞論文」

『住めたらいいな・・・、こんなまち！』

佳 作

【論文テーマ】

高校生の視点から見た総合的地域整備について
～喜茂別町の中学生・高校生による模擬議会を通じて～

【応募者】

北海道喜茂別高等学校

伊藤 竜希さん (3年)

森田 哲平さん (3年)

平成 18 年 10 月

高校生の視点から見た総合的地域整備について

～喜茂別町の中学生・高校生による模擬議会を通じて～

1 はじめに

この論文への参加にあたり、私たちの住む喜茂別町の人口がどんどん減少し、さびれていく姿を見て、なんとかしたい気持ちがこの取り組みとなった。ちょうど町の総合計画のひとつである国道230号線の整備計画の話を知ったことと町より模擬議会の企画をいただいたことで、これからの町を語るには良い機会ととらえた。

「喜茂別町中高生による模擬議会」は、模擬議会を通じて議会のしくみを理解すると共に、町の行政や地域社会への関心を高め、「安心・安全で活力ある住みよい町づくりのために」をスローガンとし、中高生の視点から町長及び行政機関関係者への提案と意見交換を行い、学校と町行政機関、地域との連携を深めることを目的として実施された。普段から町政に関して関心を持っていなかった私たちにとっては、町の将来を考え、同時に自分たちのふるさとをどう活性化させていくかということを考える良い機会である。また、行政執行部への質問などについてもただ単純に質問するだけではなく、「なぜその質問をしたのか」・「その質問をしなければならない根拠」についてしっかりと議論し、町政の本質を理解することから将来の町の姿を想像し、実現のための方策を考えていくことにした。

2 住めたらいいな、こんな町

私たちは国道230号線町並み整備計画による町の顔が変わることをきっかけに、シャッター通りに近い状態の町並みに再び活力を取り戻し、「この町でずっと暮らしていきたいと思うような町」にすることが最大の目標である。そのためには見た目から変わる町並み整備計画の利用が起爆剤になると考えた。これを実現するためにはハード・ソフト両面の整備が不可欠である。



現在の喜茂別町内の国道230号線
古い店舗は閉店したままのものが多く

検討委員会で作成された計画案を拝見させて頂くと景観や機能を含め大変興味深く、期待できる内容であった。この計画が「絵に描いた餅」にならないようにするため、そして私たちの目指す町に近づけるためさらに何が必要なのかを考え、実現のために何が必要かを深く掘り下げていかなければならない。

3 私たちが考える「国道 230 号線町並み整備計画」を利用した商店街の再編について

喜茂別町には平成 14 年から平成 23 年までの 10 力年を計画期間とする「喜茂別町総合計画」というものが作られている。この総合計画は町の将来像を決める最も重要な計画で、町の政策を進める上で基本となる計画となっている。そのなかでも国道 230 号線の整備はこの総合計画を達成させるためのひとつとして実施されるものである。ここで私たちが着目した国道 230 号線の町並み整備計画の大きな目的は、交通量の多い本国道は喜茂別町内で渋滞が多発し交通障害を改善すること。さらに交通安全の面から見ても危険度が高く町民の安全確保のためにも国道改良事業が急務であるためである。この事業は平成 17 年度より着手され、改良事業を機に市街地を活性化させるのがねらいである。ここから私たちの町に対する夢を語っていききたい。

(1)こんな町でありたい

最大の目標は「この町ですっと暮らしていきたいと思うような町」にすることである。ではどんな町であるか。

今の喜茂別は、自然が豊かで景色が美しい・老人に優しい町・静かで落ち着く町・事件などが少ない町などといった良い点がたくさんあり、誇れる内容も多い町である。また、札幌や周辺観光地にも近いといった立地条件も良い。しかし、現在では「通過する町」と言わざるを得なく、活気もなく若者にとってはあまり住みたいとは思えない町であることは確かである。特に札幌に近いだけあって、町民の目も札幌や倶知安に向いている。何故か？それは喜茂別よりも利便性が良いのはもちろん都会的な魅力が多々あること、働く場所や職種が多くあることである。私たちの住む喜茂別町が町民自身に目を向けさせるには、この環境を生かし、「活気」を取り戻すことである。その「活気」はどう作るのか？それは「見た目」、つまり第一印象からである。見た目にも新しく綺麗で何か気を引く拠点施設があれば興味関心を持つ。そうすることで「通過する町」から「目的地になる町」へ変貌すると考える。さらにそこで働くのが本町の若者であれば活気が沸いてくると思う。そうして仕事にもやりがいを感じられ、「この町でやっていこう」という気持ちにならないだろうか。また、対外的なものだけでなく町民にも「喜茂別から出て行かなくても用事が足せる」ことも重要なことである。

以上のことをまとめてみると、

- ・ 今ある自然環境や立地を生かしている（喜茂別の良さを残す）
- ・ 古い町並みをおる程度新しくする（メインである国道沿いの一部でよい）
- ・ 目的地となるような拠点施設を設置する（目的地がある）
- ・ 若者が働く場をつくる（新規参入等をサポートする）
- ・ 喜茂別から出て行かなくても十分用事が足せる

(2)夢の実現に必要なこと

前段で述べた理想を現実とするためには、第1に町民が町のことに興味関心を持つことである。喜茂別町のことを真剣に考える事が住みたいと思う町、残りたいと思う町につながっていくのではないと思われる。ちなみに、今回の町並み整備や模擬議会などの計画を知らない町民は沢山いるだろう。なぜ興味や関心を持たないのか？これは、町の行政側にも問題があるのではないだろうか。もちろん興味や関心を持たない町民も悪いのだが、情報発信の仕方に問題があるからではないかと考えた。小さい町だからこそ誰しもがわかりやすい情報発信をすることが必要であり、そうすることで町民一人一人が町づくりに参加しているという意識を持ち、町に対する愛着を持つものになるのではないだろうか。そうすることでどんな施設が必要かを含め理想像が見えてくるはずである。

第2には、いかに新規参入しやすい環境を作るかである。古い町であるため元商店主や地権者の「しがらみ」が強く、うまく世代交代が進んでいないことが独自調査でわかり、町全体利益のことよりも個人の利益が優先されているという現実である。そしてこの「しがらみ」を打破しない限り町全体の活性化はありえない。店をやりたくてもやれない、新規参入しづらい雰囲気があれば計画は成功しない。働く場所を新たに作るためにはこの壁も乗り越えなければならない。

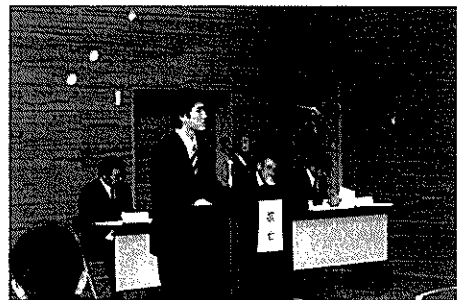
これらの夢とその実現のために必要なことがある程度見えてきた。次は実際の舵取りをする行政執行側の考えを聞かなければならない。それを模擬議会の場を通じて聞いてみることにした。

4 模擬議会における質問と行政執行部側の答弁

(1)町並み整備計画に関わる一般質問内容と行政側の答弁と評価

①計画そのものについて

現在 検討委員会などで検討されていると思います。整備が完成した後この喜茂別町を担うのは、現在の中高生・または現在大学生といった若者ではないでしょうか。そのような若者にはこれからの喜茂別について意見を聞く機会の予定はあるのでしょうか。将来この町に戻ってきて暮らしたいと考えるためには札幌のような特別な環境即ち、利便性や都会的な魅力が無い以上、町への帰属意識がないと戻れないと思います。ですから、若者にもこれからの町を考える計画などに、メンバーにしくとも意見や考えを聞いてくれる機会を与えてくれるだけでも町に関心を持てると思います。現在の中高生を含めた若者に、町並み整備について聞くという予定はないのでしょうか。町としての考えをお聞かせください。



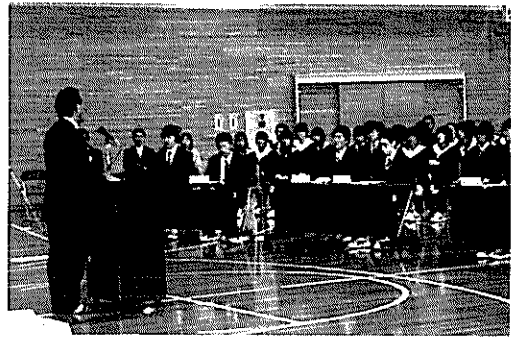
模擬議会
一般質問の様子

この件に関して行政執行側は整備計画の趣旨を説明し、各種懇談会の実施や意見収集の実施を説明。質問の中心となった意見収集に関してはインターネット掲示板の利用などの答弁があり、さらによろやく策定委員会でも町民アンケートや団体ヒアリング等を通じて集めた要望をもとに計画骨子が出来上がってきたという説明を受けた。

今後も要望を聞いていくという答弁をいただいたが、私達には「意見は十分聞いているから問題ない」という主張に聞こえた。実際この町民アンケートやヒアリングは6年前に実施された。6年間の変化は大きいと見るか小さいと見るか。私達は大きいと見ている。

②テナント募集と若者の働く場について

今回、喜茂別町の整備・活性化について4点質問します。1点目はアーケードを造りテナントを募集すると聞きましたが、どのように募集をするのでしょうか。2点目に「こんな店をやって欲しい」、「こんな店があったらいい」などの町民が希望する店舗調査を踏まえた展望はあるのでしょうか。3点目は高校を卒業して地元に残りたいと思っている中高生も多いと思うので、この機会を利用してそういった場所を作るなどの考えはあるのでしょうか。4点目は計画地は借地も多いようですし、店を始めたいと思っている企業や個人の為に、計画に入りやすい方を町として持っているのでしょうか。もちろん、検討委員会でも計画をしていると思いますが、町民の期待にも応えることが町の活性化につながると思います。町としての考えをお聞かせください。



模擬議会一般質問の町長による答弁の様子

この件に関しての行政側の答弁。2点目については「市街地活性化策定委員会」で検討が始まったということで、まだ運営形態や業種の選定、補助金のメニュー選定などは今後委員会で検討されるということであった。1・3・4点目についてはさらに住民の意見をもとに計画していきたいとのことであった。この質問のねらいは町全体利益のことよりも個人の利益が優先されているという現実を町としてつかんでいるのかを確かめることであった。しかしこの質問の仕方では質問の本意を伝えることが難しかった。そこで、再質問でもう少し突っ込んで聞いてみることにした。

(2)町並み整備計画に関わる関連質問(再質問)

①事業についての周知方法について

何年前前に実施した町民アンケート、団体ヒアリングの結果については町の広報誌で報告がなされていたと思います。しかし、何年か経っているため、今回の模擬議会があつてはじめて聞いた生徒や一般の方もいるかと思っています。そういった状況が考えられる中で、一度の広報掲載や「インターネット」での方法では、なかなか周知徹底が難しいと思います。

今、ようやく計画の骨子が出来上がったということなので、喜茂別高校の学校通信ではないが、人の多く集まる場所に大きく掲示するなどしたほうが周知できると思います。町のことをみんなが知ってはじめて



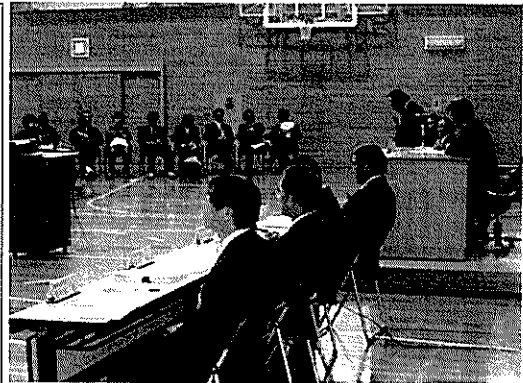
模擬議会一般質問関連の再質問の様子

意見がもらえると思います。ただでさえ、私たちを含めて町政について関心があるかという、そうではない人が多いと思います。もっと町政に関心を持ってもらうためにどのような取り組みを考えているのか、これからの取り組みに考えや計画があれば教えてください。

この質問に対しては、当然周知する機会を多く作ることは大切であると考えており、多くの意見をいただくためにも努力していきたいという回答をいただいた。取り組みたいのはやまやまだが、なかなか充実できない現実があることは理解できる。

②誘致活動の取り組み方針について

今回の総合計画を起爆剤として住みよい・活気ある町づくりをいよいよ具体的に展開していくことと思います。今回の議会でさまざまな町の活性化の計画は良く理解できました。そこで次のステップは新しく町に住みたい人の募集や、企業を誘致する具体的な動きだと思います。私たちも新しい環境に入っていきときは勇気があるものですが、それと同じで、新たな町づくりに参加する時にも「きっかけ」・「入口」が大変重要になると思います。ハード面の整備は進んでいますが、ソフト面の整備について町ではこれからどのような形で人や企業の誘致活動をしていく計画なのでしょうか。



模擬議会一般質問関連の再質問に対する町長の答弁の様子

この質問に対しては、「まだ具体的に話せる段階ではないので、その段階になったら商工会を中心として進めたい。計画があるからすぐに進めるのではなく、経済的な問題もあるのでどう支援するのかを含め、商工会にお願いするのか、自然の成り行きにするのかはまだ様子を見させて欲しい。喜茂別町は地理的な立地条件が良いので、今後観光やそれに関連する企業について進めたい。そしてお店だけではなく企業に勤める人の住宅地を充実させ、住宅地として活気のある町、そこから発展できる町になるとの認識も持っている。」との回答であった。だが残念ながら私達の期待した回答ではなかった。というのは、町行政機関の方々に失礼の無いようにと考えるあまり、当たり障りのない質問内容になってしまい、その結果、私たちが伝えたかった意図ともらう回答がちぐはぐになってしまったからである。こういったことは特にこの質問だけではない。今回の模擬議会が「イベント的要素」が濃く、質問にも限界がある。そもそも模擬議会の目的が「議会のしくみを理解する、町の行政や地域社会への関心を高める、学校と町行政機関、地域との連携を深めること」であり、この模擬議会を開催すること自体に意義があるので、私達の研究の資料とすることには限界があったかもしれない。しかし、模擬議会終了後、来賓の方とお話をする機会があり、私達の質問の意図を理解して頂いていた。その方の意見も全く同じであったことに私達の取り組みや視点が間違っていなかったを確信し、自信となった。

5 まとめ

私たちの「住んでみたい町」は誰もが当たり前を考える町であると思う。そんな町が100%つくることが出来ないのはもちろん100%承知である。ただ悲しい現実として、人として、個人として当然で当たり前のことなのだが個人の利益・財産保護中心となっている以上、なかなかうまくいかないことである。お金で解決するにしても莫大な資金が必要になることは容易に想像できる。それ以前に住民が町のことについて関心を持っているかどうか重要な問題である。だまっけても関心を持つことなどはよっぽど好きな人（行政政策や都市計画について関心が高い人など）以外はほとんどありえない。ここからはじめなければ本当の意味で「住民による町づくり」などはできない。きるだけ現実味ある方向で考えると、第一には情報公開と住民の勉強会等の開催。情報公開には多くの人の目につく・関心が持てそうな形態から入ること。そして定期的に地域住民対象の都市計画および財政勉強会等を実施し、町や地域のことを考える機会を行政側もしくは議会議員のほうから整備することである。ここである政策に対してのある程度のまとまった意見（世論）が形成されることで、個人的な感情もある程度抑えることが出来るのではないだろうか。

私たちの考える「住んでみたい町」をつくるには、まず形からでも良いので強烈なきっかけを作る（キレイでよいものをある程度つくってしまうのもひとつの方法）。そうすればせっかく整備されたのだからそれを維持していこうという気持ちにならないだろうか。入口・切り口が勝負である。この入口を失敗させないために上記で述べたことを慎重に実践するのである。そして真の意味での「住んでみたい町」は、住民一人一人が町に関心を持ち、町を愛し、誰もが住みよく安心して暮らすことの出来る町づくりを常に実践している町だと思う。誰かにやらされるのではなく、自分から無意識に取り組むレベルで。

6 おわりに

今回の町づくり研究や模擬議会を通して、自分が町に対しての関心が無かったことを気づかされた。毎日見慣れた国道230号線。昼間にもかかわらず活気が無く、さびれている。本当に市街地と言えるのかという感じだ。町のイメージといえば、高齢者が多く、農業が盛んでアスパラなどが有名だというぐらいだ。小・中・高と教育機関は整っているが、地元高校卒業し就職または進学と同時にこの町から離れていく。これが普通だと思っていた。それが普通だと思うくらいこの町に関心が無く、魅力もなかった。だが今回の研究や模擬議会を通して町づくりにかかわり、この喜茂別町を魅力ある町に変えていくのは現在の私たちのような中高生または大学生だと思った。だから今回の研究や模擬議会を真剣に取り組むことが



出来たと思う。町を作っていくのは行政部でもなく町も権力者でも無い。この町の住民である。私も住民の一人としてこれからも何らかの形で町作りに参加していきたい。

自分たちが住み、暮らしてる町。そして古くから受け継がれてきた伝統と歴史ある町。今喜茂別町が大きく生まれ変わろうとしている。暮らしやすく、活気のある町を目指して。

今まで私たちは、自分の町について考えるということがなかった。それは、行政に関わっている人達だけが、この町について考えていればいいという考えだったからだ。だから興味関心などはあまり無かった。私たち以外にも、このような考え方の人は少なからずいると思う。しかし今回の活動を通じて、そのような考えでは決して良い町は出来ないと考えた。

今私たちの住む喜茂別町は町並み整備以外にも町村合併の問題も抱えている。この合併問題に対しても住民がしっかり理解してこそそれを決定する議員や首長を選ぶことが出来る。さらに私たちの通う喜茂別高校も存続の問題を抱えている。喜茂別町は数多くの問題を抱えていると言って良い。こういった時こそどれだけ町民がそれら問題に関して関心を持てるかである。そして行政側も考えてもらうための活動を継続させる必要がある。みんなが知ってはじめて考えることが出来て対応策が検討できる。今回の模擬議会でもこれらの点についての質問も行った。まだ私たちを含めた生徒、住民の一部はそこまで到達していない気がする。しかし今回の模擬議会で中高生のレベルからその意識付けはできたと思う。十分に意義あるものになった。町の将来を決めるのは町に住んでいる住民一人一人の意思にかかっていることを改めて考えることができた。